

四方よもの海うみ
(明治めいじ天皇てんのう)

解説 日露戦争の開戦にあたって明治天皇には危惧があった。世界は全てが兄弟姉妹である平和な時代であると思っっているのだが、どうして波風が立つような動乱の兆しがみえるのだろうか。と。

四方よもの海うみ みなはらからと 思おもう 世よに

語釈 ※四方海Ⅱ四方の外国。国のまわり。※はらからⅡなかま。ともだち。同袍。※波風Ⅱ世の中や人間関係が騒ぎ乱れること。ごたごたすること。もめごと。

など 波風なみかぜの 立たち さわぐ らん

通釈 四方の海にある国々はみな同袍だと思っっているこの世の中であるのに、どうして波風が立ち騒ぐのだろうか